

## プログラム&作品紹介

### 「野ばら」小川未明

※小川未明： 1882年～1961年。日本のアンデルセンとも称される。代表作「赤い蝋燭と人魚」など。「野ばら」は今から約100年前に発表された作品。

### 「ちいちゃんのかげおくり」あまんきみこ

※あまんきみこ： 1931年(昭和6年)生まれの童話作家。14歳の時、旧満州で終戦を迎えた。「今の子どもたちに戦争を伝えることは難しい、しかし、戦争で死んだ子どもたちがいたことを覚えていてほしい」と作者は言う。「車のいろは空のいろ」(ポプラ社)で第1回児童文学協会新人賞を受賞。「おにたのぼうし」など多数。

### ひろしまの子どもたちが書いた詩 「原子雲の下より」(青木書店)

無題 増西正雄 執筆時：南観音小学校6年  
弟 栗栖英雄 執筆時：舟入小学校5年  
無題 香川征雄 執筆時：南観音小学校5年

これらの詩は広島を訪れる人たちを対象に国立広島原爆死没者追悼平和祈念館にて、又は依頼を受けて全国の学校等に出向いて、朗読ボランティアが朗読している。

### 「ウミガメと少年」より 野坂昭如

※野坂昭如： 1930年～2015年。小説家、批評家、そして歌手、政治家など、様々な顔を持つ。その人生を貫く軸となったのは、少年時代に体験した戦争だった。「焼け跡闇市派」を名乗り、常に戦争反対の立場から活動が続けた。「火垂るの墓」、ヒット曲「黒の舟歌」等。

### 詩「蝶の希望」「絶望のとなり」 やなせたかし

※やなせたかし： 1919年～2013年。アンパンマンの作者 中国の上海郊外で敗戦を迎えた。「戦争はとにかく腹が減る。人間いちばんつらいのはおなかが減っていることなんだ」という体験から、空腹で困っている人たちに、アンパンでできた自分の顔を食べさせるヒーローが生まれたという。

### 「十歳のきみへ 九十五歳のわたしより」(富山房インターナショナル)より 日野原重明

※日野原重明： 2017年105歳で没。聖路加国際病院院長、同名誉院長、理事長歴任。2005年文化勲章受章。「十歳のきみたちへ～ぜひ読んでほしい憲法の本～」(富山房インターナショナル)「いのちの使いかた」(小学館)等。

### 「ワタシゴト 14歳のひろしま」(汐文社)より 中澤晶子

※中澤晶子： 広島市在住。1991年「ジグソーステーション」(汐文社)で野間児童文芸新人賞受賞。「あしたは晴れた空の下で」(汐文社)「ひろしまの満月」(小峰書店)等。修学旅行で広島平和記念資料館を訪れた主人公あかりは、東日本大震災に遭い、都会で暮らしていた。「ワタシゴト」とは、「記憶を手渡すこと＝渡し事」と「他人のことではない、私のこと＝私事」を意味する。

### 詩「せんそうしない」 谷川俊太郎

※谷川俊太郎： 戦後現代詩を代表する詩人。2024年92歳で没。‘かっぱかっぱらった…’(「ことばあそびうた」)、「生きているということ いま生きているということ…」(「生きる」)など軽妙なりズムの詩はよく知られている。アニメ「鉄腕アトム」の主題歌や100を超える校歌も作詞。

※時間の都合により、一部を抜粋した作品があります